空き家利活用コンテスト2022 優秀賞

住宅部門

事例 02

# 長谷邸（民泊 ちづの宿 日々の暮らし）

## 暮らしを楽しむ工夫を盛り込んで
## 家族でDIYした“自然と共存する家”

南向きの縁側から明るい陽光が差し込む、1階のリビングダイニング。改修前は2間続きの和室だった。地元製材所から規格外の智頭杉の板を格安で譲り受け、天井と床に張った。杉のいい香りと薪ストーブの暖かさに包まれる。

智頭で空き家を探していた若い夫婦が出合ったのは、台所は土間、トイレは汲み取りの和式、壁は全て土壁という古民家。経験はなかったが、ほぼ自分たちだけでDIY、2回に分けて改修を進めていったという。

最初の改修は、1歳の我が子を抱えながらコツコツ作業。壁に漆喰を塗り、天井や床には智頭杉を張った。「持続可能な暮らし」をテーマに掲げ、給湯は薪ボイラーで、暖房には薪ストーブをチョイス。バイオガストイレを導入し、糞尿を液肥として活用できるようにしたのもこだわり。家の横にある田畑で米や野菜を作り、ニワトリを飼育し新鮮な卵を頂く、自然に寄り添った暮らしに幸せを感じている。

2回目の改修は、4人に増えた子どもたちとの日々がもっと楽しくなるよう工夫。屋根付きのベランダには、床板の下に砂場と囲炉裏が。ピザ窯も製作、玄関アプローチや塀をレンガで造り外構も整えた。さらには、玄関横の納屋をゲストルームに改築し、民泊の受け入れを開始。ここに泊まったことで智頭に惹かれ、移住してきた人もいるとか。この家を通じて、豊かな暮らしができる智頭の魅力を発信している。

浴室の裏に設置する給湯用の薪ボイラー。お風呂、キッチンと、家中の温水をこれで賄っている。

昔ながらの日本家屋の情緒を残す玄関。土壁だったところは、
家族で力を合わせて漆喰を塗った。

2回目の改修で造った屋根付きのベランダ。床板の一部を開けると砂場と囲炉裏が登場する。
子どもたちの遊び場であり、友人らとBBQを楽しむ憩いの場でもある。

（写真上・右下）2階の和室と、廊下を挟んで反対側にあるフローリングの個室。
（写真左下）1階のゲストルーム。納屋だったところとは思えないくらい美しい仕上がり。

[ DATA ]

【所在地】八頭郡智頭町　【構造】木造2階建て　【築年月】昭和37年
【改修後の用途】住宅＋民泊（令和5年4月以降は一棟貸しの宿泊専用施設として活用予定）
【間取り構成】個室5室、リビング、ダイニング、キッチン、トイレ・風呂
【改修期間】2013年4月～2014年3月、2021年4月～2022年3月
【改修費用】約470万円